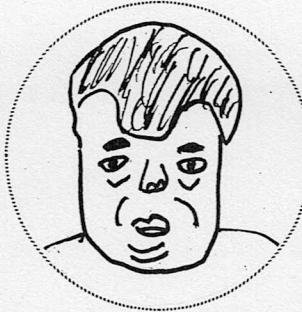


学校だより 希望の鐘

ひとつほんはいちどしかひらかない



八戸市立
小中野中学校
平成30年8月31日(金)
No.127 文責:校長
工藤聰

母の茗荷（ミョウガ）

1975年に放送が開始されたテレビ番組に、「まんが日本昔ばなし」がありました。確か土曜夜の7時から30分間で、全国各地の昔話をナレーターの軽妙な語りとほのぼのとしたアニメで、視聴率も高かったと記憶しています。かなり長い期間放送されていましたし、再放送もあったので、みなさんのご両親も、もしかするとリアルタイムで視聴していたかもしれません。

その「まんが日本昔ばなし」の中で、1977年に放送されたものに「みょうがの宿」というのがありました。茗荷を食べさせて、財布を忘れさせようとした欲張り夫婦の話でした。

昔、安芸（アキ：現在の広島県の西半部）の宮島の厳島（イツクシマ）神社へ続く街道筋に、とても欲深い夫婦が一軒の宿屋を営んでいた。強欲（ゴウヨク：非常に欲が深いこと）ぶりが旅人にもわかるのか、客はめったに来なかった。

その宿に、久しぶりに景気の良さそうなお客様がやってきた。強欲な夫婦は、茗荷（ミョウガ）を食べると物忘れする、という話を思い出し、この客にたくさん茗荷を食べさせて大金の入った財布を忘れていかせようと計画した。

強欲亭主が、暑気払い（ショキバライ：「しおきはらい」とは言う。暑さに負けそうになる心身を元気づけること。また、そのために何事かをすること。）に効果があるからと「茗荷の重ね食い」と名づけたその献立は、茗荷の串焼き、茗荷の浅漬け、茗荷の三杯酢、茗荷の煮つけ、茗荷のお汁、茗荷飯。みょうがのフルコースだったが、どれも美味しかったため、客は大喜びだった。

翌朝、客は朝食にも茗荷づくしの料理を食べさせられて、なにやらフワフワとした気持ちで厳島神社へ出発した。さっそく亭主は客室をくまなく探したが、何も忘れているものは無かった。がっかりした夫婦だったが、財布に気を取られて宿代をもらい忘れていた事に気がついた。

がっくりと気落ちした夫婦だったが、その客が茗荷料理のうまさをあちこちで吹聴（フィチョウ：言いふらすこと。言い広めること。）してくれたので、それからその宿は、「茗荷の宿」と呼ばれ、たいそう繁盛したそうです。

「茗荷を食べると物忘れをする」というのは、私が子どもの頃、亡くなった祖母にいつも言われていました。祖母もかなり本気で信じていたようなところがあり、無理に私や妹にはすすめませんでした。私も、一種独特の香りや苦みのある茗荷はあまり好きでなかったので、ラッキーだと思って食べませんでした。しかし、茗荷の香り成分は α ピネンといって、大脳皮質に働きかけて頭をシャキッとさせる効用があるのだそうです。また、血液の循環を良くしたり、むくみや手足の冷えの改善、胃の調子を整えることでの食欲増進など、いい面がいっぱいあることも調べてわかりました。

私の平川市の実家では、昔から茗荷を栽培していました。栽培というよりも、そんなに手をかけていたわけではなく、一度植えると3~4年収穫できるということもあり、私にとっては自生（ジセイ：自然に生え育つこと。）に近かったような気がしています。今でも、実家の畑に、かなり成長した葉の下に茗荷がいっぱい育っています。お盆に帰省したおり、帰る際に私の母が「ちょっと待って」と言って、茗荷を取ってくれました。88歳の米寿（ベイジュ：「米」の字を分解すると、八十八となることから、88歳のことやそのお祝いのこと。）ですので、足腰も弱くなって、ツエがなくてはスムーズに歩くことはできません。ですから、しゃがんで茗荷を取ることも無理なので、四つんばいになって茗荷を取っていました。気温が30度を超える日でしたので、私が「もういいよ」と言ってしまうやめず、ズボンを土だらけにしながら取って、私と家族に持たせてくれました。今でも、さほど好きな食べ物ではありませんが、母が一生懸命取ってくれた茗荷ですので、愛情のこもった薬のつもりで食べています。食べ続けていると、独特の味にも慣れ、おいしく感じるようになってきました。

みなさんの親も、同じなのではないかと思います。私も、子どもの頃は親の愛情に気がつきませんでしたし、みなさんも同様でしょう。でも、親（家族）の調理してくれる食事に対して、感謝する気持ちを少しでも持つことができれば、その味は格別のものとなってくるのだと思いますよ。

実習生の亀橋先生からの手紙

6月に教育実習に来ていた亀橋貴先生から、手紙が来っていました。2か月ほど経過してしまいましたが、みなさんにも紹介したいと思います。（一部編集しています。また、掲載することについては亀橋先生の承諾をとっております。）

実習にあたっては、右も左もわからなかった私を温かく受け入れてくださいましたことに深く感謝しております。また、この度の実習では、諸先生方には親身あふれるご指導を賜りまして、誠にありがとうございました。

小中野中学校の印象は、雰囲気が明るく、意欲的で活気に満ちており、先生方の情報交換やコミュニケーションもしっかりとられていると感じました。また、先生と生徒の距離が近く、生徒一人ひとりが明るく素直、さわやかでした。このような素晴らしい環境のもとで実習することができましたことを、本当にありがとうございます。

初めは緊張し、不安でいっぱいでしたが、先生方や生徒たちが温かく受け入れてくださったので、しだいに安心して取り組むことができました。

先生方には、分からぬことや必要な知識、生徒たちの様子、指導法など、たくさんのことをお懇切丁寧に教えていただきました。特に体育の授業では、年齢や性別等に対応した指導の仕方にとまどう場面もありましたが、適切なアドバイスをいただいたおかげで、徐々に対応できるようになりました。担当した学級では、自分の実体験をもとに生徒たちが興味を抱く話をしながら、今後の学校生活にどのようにいかしていくべきかという「伝え方」を学ぶことができました。素晴らしい先生方に囲まれて実習でき、幸福感と感謝の気持ちでいっぱいです。

3週間という期間ではありましたが、生徒たちとも仲良くなることができました。朝の元気な挨拶、休み時間に一緒に遊んだ時に見せてくれた笑顔、放課後の部活動での真剣なまなざし。お別れの際は、フォトブックや寄せ書きなどをいただきました。特に、体育の授業の際に、生徒たちから「亀橋先生の体育の授業、楽しかったです」「亀橋先生のおかげで、以前より運動することが好きになりました」と言ってもらえた時は、涙が出るくらい感動しました。先生方の温かいご指導や生徒たちの元気な笑顔が、私にとってはとても大きく、3週間があっという間に過ぎていきました。

私は大学に戻り、これからも教員免許の取得に励みます。また、教育実習で学んだことをいかし、積極的にいろいろなことに挑戦していきたいと思います。さらに、ご指導いただいた先生方の教育にかける思いや情熱を胸に刻み、3週間で得られた感動を一生忘れることなく、先生方のような教師になれるよう、より一層の努力を続けていきます。

大変立派なお礼の手紙です。亀橋先生の「感謝の気持ち」が素直に伝わってきます。卒業してから何年もたっていますから、卒業生と言うよりも、地域住民の一人といった方がいいと思います。そのような亀橋先生から、「意欲的で活気に満ちている」「先生と生徒の距離が近い」「生徒一人ひとりが明るく素直」と言っていたいただいたことは、校長としても本当にうれしいことです。

ただし、ストレートに受け取るだけではなく、本当にそうなのかを謙虚に自問自答（シモンジトウ：自分で問いかけ、自分で答えること）してみてください。「朝の元気な挨拶」はできているのか？「部活動は真剣なまなざし」で取り組んでいるか？それは、みなさんだけでなく私も同様です。本当に亀橋先生がほめてくれているような小中野中学校なのかな…と。

亀橋先生、お手紙ありがとうございました。小中野中学校もコナ中生も頑張ります。亀橋先生も、教員目指して頑張ってください。絶対に、いい教員になれると思います。

【きょうのひとり言】

●きょうの私の似顔絵は、■年 組の■くんに描いてもらいました。夏休みに足をケガしたということを聞いていたのですが、体育祭の練習では普通に走っていてピックリしました。■くんに直接聞いたら、医師に確認して「走ってもよい」ということになったのだそうです。それでも、リレーで走っている■くんを見て、ハラハラしていました。治って良かったです。新人戦の優勝目指して男子のバレーボール部員一丸となって頑張ってください。期待しています。